

## 水産技術投稿要領

- 第1条 水産技術への投稿は、本要領に定めるところによる。
- 第2条 投稿原稿は原著で、未発表かつ他に発表を予定していないものに限る。
- 第3条 投稿原稿は原著論文、短報、総説、技術小史・技術論、技術報告及び資料並びに技術情報とし、委員長、副委員長及び編集担当委員の審査により原稿受理が決定されたものを掲載する。
- 第4条 投稿者は、水産技術企画・編集委員会（以下「委員会」という。）が定める水産技術投稿原稿の書き方及び投稿の方法に従って原稿を作成し、投稿前チェックリストで確認後に投稿する。
- 2 投稿者は、投稿原稿の電子ファイル一式を委員会事務局宛てメールにて提出する。通信容量に制限等がある場合は、電子記録媒体での提出も可能とする。
- 第5条 写真及び図は、原則としてモノクロームとする。投稿者の希望により、水産技術企画・編集委員長が認めた場合には、カラー印刷も可能とする。
- 第6条 印刷の際の初校は著者が行う。その際には、原則として文章又は図表の変更や追加は禁止する。
- 第7条 本誌掲載文の著作権は、国立研究開発法人水産研究・教育機構に帰属する。

# 水産技術投稿原稿の書き方及び投稿の方法

## 1. 原稿

原稿は電子ファイルで作成する。パソコンのOSはWindowsあるいはMacintoshとし、ワープロソフトはMicrosoft社のWordを使用する。新規書類の作成画面で「白紙の文章」を選ぶ。用紙サイズは、A4判縦とし、上下左右に各々2 cmの余白を設け、35字×25行の横書き形式で、文字の大きさは12ポイント、フォントは特に指定する見出し「10. 見出し」、図表「12. 表、図・写真」以外は明朝体(MS明朝, 游明朝, ヒラギノ明朝など)で作成する。ただし、英数字はセリフ体「Times New Romanなど」とする。句読点は、和文では「(全角)」 「.(全角)」, 英文では「(半角)」 「.(半角)」を使用する。原稿にはページごとに行番号(1~25)を、全てのページの下中央にページ番号を付すこととする。なお、提出方法は「17. 原稿の提出方法」に従う。

## 2. 論文等の種別

掲載する論文は、原著論文、短報、総説、技術小史・技術論、技術報告及び資料とする。また、論文の他に技術情報を掲載する。

**原著論文**とは、水産に関するオリジナルな技術開発(新しい手法や装置の開発、既存の手法や装置の改良など)についての論文とする。

**短報**とは、原著論文としてはまとまらないが、手法などに技術的な新規性もしくは実験結果に価値があると認められ、いち早く報告する必要があるものとする。

**総説**とは、特定の技術開発分野に関する主要な文献の総覧とし、その記述は、単なる事実等の羅列でなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つものとする。

**技術小史・技術論**とは、対象とする分野や水産生物等の利用に関するこれまでの技術開発の歴史を基に、その経緯及び内容についてとりまとめたものを**技術小史**とし、対象とする分野や水産生物等の利用に関する技術についての考え方等を取りまとめたものを**技術論**とする。

**技術報告**とは、水産に関する国内外において既に開発あるいは製作された技術、機器、装置、薬剤等に関する特性の評価や技術的な応用をとりまとめたもの、あるいは、これらを用いた新たな装置の試作等、技術開発を促進し、普及・利用を図るための情報として価値があるものとする。

**資料**とは、水産の技術に関連した実験・調査・装置の試作などによって得られたデータなど、技術開発を進める上で記録に残すべき価値のあるものとする。

**技術情報**とは、国内外の新しい技術開発の内容や技術開発プロジェクトの紹介、技術開発の動向、知財及び開発機器等を公表するものとし、事務局から執筆依頼する記事とする。

## 3. 原稿の構成

投稿原稿は、1ページ目は表紙とし、①和文表題、②ランニングタイトル、③キーワード、④和文著者名、⑤英文表題、⑥英文著者名、⑦所属及び所在地、⑧英文所属及び所在地、⑨E-mail(⑧、⑨は第1著者のみ)の順に記載する。2ページ目は⑩英文要旨、3ページ目以降に⑪本文、⑫謝辞、⑬文献、⑭表、⑮図・写真、⑯和文要旨の順に記載する。原稿はすべて1つのファイルにまとめる。

#### 4. 表題

和文表題は、論文内容を適切に表現する簡潔な文とし、60字以内で記す。英文表題は和文表題と内容がかけ離れないよう注意し、30単語以内で記す。英文表題は、文頭文字のみ大文字とする。和文表題での生物名は原則として標準和名のみとし、学名は併記しない。英文表題での生物名は、英名に続けて必要に応じて学名を記載する。生物名に標準和名がない場合は、慣用名を使用することができるが、企画・編集委員会が使用の是非を最終判断する。

なお、表題は「○○の研究1」のような番号付きの表題や、続編を想起させるような副題付き表題は認めない。

#### 5. ランニングタイトルとキーワード

ランニングタイトル（誌面上部欄外に載せる表題を簡潔にしたもの）として和文20字以内で記載する。また、原稿の内容に関連の深いキーワードを4語以内で、重要な順に記載する。

#### 6. 著者名

英文著者名はローマ字で記載し、名（first name）、姓（family name）の順とする。名（first name）は、頭文字を大文字、2文字目以降を小文字とし、姓（family name）は大文字で記載する。

連名の場合、和文著者名では中点「・」で、英文著者名では、「,」と「and」で連ねる。和文著者名で姓名合せて3文字以下の場合は、姓と名の間に1文字分の全角スペースを挿入する。

和文著者名の右肩にアスタリスク「\*」、所属の異なる共著者のある場合は所属機関毎に\*<sup>1</sup>, \*<sup>2</sup>, . . . (\*<sup>1</sup>, \*<sup>2</sup>は . . . はすべて半角で上付き) を付けて記載する。

なお、著者名及び著者の順番は原則として変更できない。変更する場合は、正当な理由と著者全員の同意書を書面で編集委員長宛に提出する。

(表紙記載例)

表題：サケの耳石温度標識パターンを増やすための標識時間の短縮

ランニングタイトル：サケの耳石温度標識時間の短縮

キーワード：サケ, 耳石標識, 標識パターン, 大量標識放流

著者名：宮内康行\*<sup>1</sup>・江田幸玄\*<sup>2</sup>・平間美信\*<sup>3</sup>・岡本康孝\*<sup>1</sup>・大貫 努\*<sup>4</sup>

英文表題：Shortening of marking time to increase otolith thermal marking pattern of chum salmon *Oncorhynchus keta* released from hatcheries

英文著者名：Yasuyuki MIYAUCHI, Yukiharu GOHDA, Yoshinobu HIRAMA, Yasutaka OKAMOTO and Tsutomu OHNUKI

## 7. 所属及び所在地

和文著者名の右肩に付けたアスタリスク「\*」, 「\*1, \*2, …」に対応する所属機関名を表紙頁の下段に記載する。第1著者は所属する機関名（必要に応じて庁舎、支所名等を記載できる）の他、その住所を和文と英文で記載し、電子メールアドレスを付す。第2著者以下については、第1著者と所属が異なる場合は改めて所属機関名のみを和文で記載する。現在無所属の著者は、論文に用いたデータを取得した時点の所属または元の所属を記載する。

(表紙記載例)

所属及び所在地：

- \*1 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所環境・応用部門沿岸生態系システム部  
〒236-8648 神奈川県横浜市金沢区福浦2丁目12-4  
Coastal and Inland Fisheries Ecosystems Division, Environment and Fisheries Applied Techniques  
Research Department, Fisheries Technology Institute, Japan Fisheries Research and Education  
Agency, National Research and Development Agency, 2-12-4, Fukuura, Kanazawa, Yokohama,  
Kanagawa 236-8648, Japan  
yyyyyyyy@fra.go.jp
- \*2 水産庁増殖推進部裁培養殖課

## 8. 要 旨

要旨は和文と英文を併載する。

和文要旨は300字以内とし、表題、著者名は記載しない。

英文要旨は200語（words）以内とし、表題、著者名は記載しない。

著者が英文要旨作成を事務局に依頼する場合は、事務局が和文要旨に基づいて作成する。

## 9. 本文の構成

**原著論文：**本文の構成は、まえがき、材料と方法（内容によっては技術や装置の概要等）、結果、考察、謝辞、文献の順序とする。

**短報：**本文の構成に指定はないが、小見出しは付さないこと。また、全体で6,000字以内にまとめる（図表は一つ300字として計算する、刷り上がり4ページ以内）。

**総説、技術小史・技術論：**本文の構成に指定はないが、編集委員及び事務局と協議し査読を通して適正な論文構成とする。

**技術報告：**本文の構成に指定はないが、これまでの技術開発の経過（既報を含めて）、技術開発の方法（材料と方法）、経過あるいはデータ（場合によっては結果）、過去の技術開発との比較、技術利用の注意点とする。

**資料：**本文の構成に指定はないが、単なるデータの記載だけでなく、材料と方法に相当する記載、データの検証や試験経過において特に記載すべき事項を表す項をおく。

## 10. 見出し

見出しは単独行，左寄せで，ゴシック体（MSゴシック，游ゴシック，ヒラギノ角ゴシックなど）で記載する。ただし、「まえがき」の見出しはつけない。見出しの前後1行は空き行とする。材料と方法や結果の項等の小見出しはゴシック体で記載，番号は付けないことを基本とし，小見出しの直前1行を空き行とする。小見出しに続いて全角スペースを1文字挿入し，本文は追い込みとする。

さらに細分化した小見出しが必要な場合には，番号を，1., 2., …, (1), (2), …, 1), 2), …の順に使用しゴシック体で記載，続く本文は追い込みとする。A, BやI, IIは用いない。

見出しや小見出しにピリオドがある場合は全角とする。

（例）

**装置の概要**〔ゴシック体〕

〔1行空ける〕

**構成**〔ゴシック体〕 □〔全角スペース〕電源部，検知部及び記録部から構成され…

1. **電源部**〔ゴシック体〕 □〔全角スペース〕電源部は…

(1) **変圧・整流装置**〔ゴシック体〕 □〔全角スペース〕200Vの交流電圧を安定的に得るため…  
編集委員長が必要と認める場合を除き，原則として本文を箇条書きにしない。

## 11. 文 献

(1) 引用した文献は本文の関連箇所に次のように引用する。

・引用文献の著者が1名または2名の場合

「田中（1985）」または「(田中 1985)」

「鈴木・田中（1980）」または「(鈴木・田中 1980)」

「Allendorf and Ryman（1987）」または「(Allendorf and Ryman 1987)」

・著者が3名以上の場合，筆頭著者の姓に「ら」または「*et al.*」を付記

「吉村ら（1992）」または「(吉村ら 1992)」

「Miyajima *et al.*（1999）」または「(Miyajima *et al.* 1999)」

・2論文以上の引用の場合，「,」で連記

「(小林・石川 1964, 真山ら 1983, Hasegawa and Takahashi 2013)」

・報告書等で地方自治体等の記述で著者が明示されていない場合

「神奈川県（2000）」または「(神奈川県 2000)」

(2) 欧文の文献を引用する場合は，著者名は姓の先頭文字のみ大文字とし，2文字目以降は小文字で記載する。著者名と発行年の間に半角スペースを入れる。

(3) 文献のリストは，本文の末尾にある文献の項に姓のアルファベット順に記載する。同一の筆頭著者による文献が複数ある場合は，1名，2名，3名以上の著者の順に配列する。連名の場合は，第2著者をアルファベット順に配列した後，それらをさらに年代順に配列する。3名以上の著者の場合は，年代順に配列する。欧文の文献の著者名は姓のあとにイニシャルのみを付けるが，姓のあとのカンマや頭文字の省略形を表すピリオド，及び最終著者名

の前の「and」は省略（連名の場合も同様）する。

- (4) 雑誌に掲載された論文を引用する場合は、以下の例に示すように、著者名（年）表題、雑誌名、巻、ページの順に記載する。雑誌名は、慣用法に従って略記する。巻数はゴシック体・太字で記載する。英文雑誌から引用する場合、雑誌名は斜体で記載する。雑誌名略記法はChemical Abstracts Service (CAS) 及びBIOSIS Serial Sourcesに準拠する。日本語、英語以外の外国語で書かれた文献については、英訳された題名をつける。文献に英訳が無い場合、著者が英語に翻訳する。文末には、(in Russian), (in Greek) の要領でオリジナルの言語が分かるように記載する。なお、英文要旨がある場合は、(in Greek with English abstract) のように記載する。
- (5) 単行本から引用する場合は、著者名（年）書名、出版所、出版地、引用ページもしくは総ページ数の順に記載する。
- (6) 文献リストでは、著者が3名以上の場合でも著者名は全て記載する。また、同一著者や同一題名が続く場合にも「-」のように省略しない。
- (7) 事業報告書等で、著者名が明示されていない文献から引用する場合には、報告県名（機関名）（年）報告書名、引用ページの順に記載する。
- (8) 特許を引用する場合は、発明者、発明の名称、公開特許公報または特許公報の番号、年の順に記載する。引用には特許出願公開番号（特開）または特許番号（特許）を取得したもののみ可能とする。出願番号（特願）は引用文献とはしない。
- (9) インターネット（Webサイト等）上で公開されている論文やデータベース等の電子データも引用文献とする。Webサイトの引用については、著者名が明示されていない文献から引用する場合には、機関名（年）誌名、巻又は号、機関所在地、URL、アクセス年月日の順に記載する。
- (10) 文献リストの2行目以降の行は、和文では行頭を2全角スペース（2全角文字）分、英文では3半角スペース（3半角文字）分を字下げして、1行目に続ける。
- (11) 機関名の略記（本文中で必要な場合）は日本水産学会ウェブサイト内の「日本水産学会が用いる機関名の略記」（[http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/PUBS/KITEI/kikan\\_new.html](http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/PUBS/KITEI/kikan_new.html)）を参照のこと。

(例)

・ 雑誌

吉村研治・〔和文の場合中点「・」は全角〕宮本義次・中村俊政（1992）〔和文の場合括弧は全角〕濃縮淡水クロレラ給餌によるワムシの高密度大量培養.〔和文の場合ピリオド「.」は全角〕栽培技研,〔和文の場合カンマ「,」は全角〕 **21**, 1-6.

Miyajima T,〔英文の場合カンマ「,」は半角で、後に半角スペースを入れる〕Hamanaka Y, Toyota K (1999)〔英文の場合括弧は半角で、閉じ括弧「)」の後に半角スペースを入れる〕A marking method for kuruma prawn *Penaeus japonicus*.〔英文の場合ピリオド「.」は半角で、後ろに半角スペースを入れる〕*Fish. Sci.*, **65**, 31-43.

・ 単行本〔引用箇所が一箇所の場合⇒ページ範囲, 単一ページ〕

- 田中昌一（1985）水産資源学総論. 恒星社厚生閣, 東京, pp.181 – 183.
- Gulland JA (1983) Fish stock assessment. Wiley, New York, p.83.
- ・ 単行本〔同一の本から複数箇所を引用している場合⇒総ページ数〕
 

田中義麿・田中 潔（1980）科学論文の書き方. 裳華房, 東京, 365 p.

Cochran WG (1977) Sampling techniques. Wiley, New York, 428 p.
  - ・ 単行本〔複数の論文を集めた本の中の 1 編を引用する場合〕
 

廣瀬慶二（1992）最近の成熟・産卵制御法. 「海産魚の産卵・成熟リズム」（廣瀬慶二編）, 恒星社厚生閣, 東京, pp. 125 – 137.

Allendorf FW, Ryman N (1987) Genetic management of hatchery stocks. in “Population genetics & fishery management” (ed. by Ryman N, Utter F), Univ. of Washington Press, Seattle, pp.141 – 159.
  - ・ Web サイト
 

水産総合研究センター（2014）大型クラゲの出現状況（国際フェリー調査結果等）について-第 1 報-. <http://www.fra.affrc.go.jp/kurage/h26/260703/index.htm>, 2014 年 5 月 20 日〔アクセス年月日を記載すること〕.
  - ・ 事業報告書〔著者名が明示されていないもの〕
 

茨城県（1992）平成 2 年度放流技術開発報告書, 太平洋ヒラメ班. 茨 21-茨 63.

海洋水産資源開発センター（1992）平成二年度沖合漁場総合整備開発基礎調査, 日本海大和推海域（本文編）, 216p.
  - ・ 私信, 未発表（投稿中を含む）や学会講演, シンポジウム要旨, 修士論文は文献の項には記載しない。必要なら本文中の引用箇所に「( )」内で記載することとし, 脚注による説明文は記載しない。

## 12. 表, 図・写真

- (1) 表, 図及び写真は, 本文中に関連する内容を記述する際に本文に続き (図 1), (表 1) のように記述し, 挿入箇所を本文原稿中の右の欄外に赤字で指定する。
- (2) 表, 図及び写真は, 「1. 原稿」で指定した A4 縦判原稿に 1 点ずつ別ページにして作成し, 番号と和文の表題をつける。
- (3) 表, 図, 写真の刷り上がりの時の大きさは, 表, 図, 写真の下に横幅のみ 16 cm (両段) または 8 cm (片段) で指定し, カラーの希望があれば明記する。
- (4) 表の番号及び表題は, 「表 1. 表題」として表の原稿の上部に, 説明文は表の下に記入する。図, 写真の番号及び表題は, 「図 1. 表題」, 「写真 1. 表題」として図または写真の下部に記入する。表, 図, 写真の表題及び説明文の最終文字の後には句点やピリオドなどは付さない。図, 写真の説明文は, 表題の次の行に改行して記載する。
- (5) 図表の表題及び表の書体は, 「図」, 「表」, 「写真」はゴシック体。「図, 表, 写真の番号 (半角)」はセリフ体。「ピリオド (全角)」はゴシック体とし (下記例のアンダーライン部分), 以降の和文は本文と同様とする。

(例)

図 1. 実験装置のレイアウト

表 2. 供試魚の栄養成分

写真 3. 稚魚再捕ネット

- (6) 表の罫線は、最上部を二重横線とし、必要最小限の横実線だけで作成することを原則とし、可能な限り縦線や点線は使用しない。
- (7) 刷り上がりを意識して明瞭な図・表を作成し、鮮明な写真を使用する。図中に論文に関係のない不要な文字、記号及び線等は削除する。

### 13. 脚注

本文中の脚注は、編集委員長が認める場合を除き、原則として記載しない。

### 14. 文字

- (1) 字体指定は、斜体、太字、上付き等になるように Word 上で指定する。

イタリック体：*a b c d*

太字：**a b c d**

上付き： $10^2$

下付き： $O_2$

- (2) 数式や記号、及びギリシャ文字は明瞭に指定する。
- (3) 和文は全角を使用し、英数字、小数点及び斜線（スラッシュ）は半角を使用する。全角特殊記号（÷, ±, 凸, ∴, ♀, °C, %, ¥, ☆, ©, △, →, ※, ? など）を使用しない。+, -, %などはセリフ体（+, -, %など）を使用する。日本語フォントの全角特殊記号「℃」は使わず、セリフ体の「°」（Times New Romanの特殊文字、文字コード：00B0）と大文字の「C」を隣合わせて「°C」とする。

### 15. 用語等

- (1) 用語は原則として「学術用語集（動物学編、植物学編、化学編、農学編など）」（文部省）及び「新・英和和英 水産学用語辞典」あるいは「Web 版 新・英和和英 水産学用語辞典（<http://www.jsfs.jp/d-dic/>）」（日本水産学会編、恒星社厚生閣、2017）に準拠する。
- (2) 生物名は、標準和名をカタカナで書き、本文中の初出の箇所では続けて学名をカンマやカッコを付けずに斜体で入れる。「いわし旋網」, 「かつお節」などの場合にはカタカナを用いない。英文要旨中では、生物名の次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。原則として命名者を省く。また属名や種名を本文の最初から略記してはならない。本文中で学名の表示を必要以上に重複させることは避ける。図表中の学名は略さない。
- (3) 化学名は慣例に従って漢字もしくはカタカナで記載し、原語を用いる必要があるときは小文字で書く。化合物の略語は国際慣用に従い、必要なときは、本文中でその旨を注記する。外国語は原則としてカタカナ書きとする。原語を用いる場合、人名、地名、ドイツ語の名詞、



固有の商品名などを除き、小文字で記載する。同一報文中で同一物名について和洋語を混用してはならない。英文中の日本語はローマ字表記で斜体とする。

- (4) 遺伝子座の命名は、Gene Nomenclature for Protein-coding Loci in Fish (Shaklee JB *et al.* Trans. Am. Fish. Soc. 1990, 119, 2-15) に準拠する。
- (5) 酵素名は、本文中の必要な箇所に酵素番号及び系統名あるいは常用名を記述する。酵素番号及び系統名は、国際生化学連合 (International Union of Biochemistry and Molecular Biology, IUBMB) の酵素委員会 (Enzyme Commission) によって分類された "Enzyme nomenclature 1992" (Academic Press) に準拠する。ATPaseのように基質が省略されている場合を除いて酵素の名前は省略しない。
- (6) 新規の核酸塩基配列及びアミノ酸配列データは、GenBank, EMBLあるいはDDBJのいずれかのデータベースに登録する。本文中に accession number を表記する際には、報文の場合は材料と方法の最後に、短報の場合は本文の最後に表記する。論文審査時に accession number が得られないときは、その配列データファイルを電子メディア等に収めて提出することを要求する場合がある。また、既に公表されている accession number を記載する場合には、適切な文献を引用する。投稿直前と受理時に配列データの検索や比較結果を、最新のデータベースで再確認することが望まれる。
- (7) 物理量の名称や量記号等は、できるだけ国際純正・応用化学連合 (International Union of Pure and Applied Chemistry, IUPAC) の勧告に従う。物理量の記号は斜体で記載する。添字はそれ自身が物理量を表すときは斜体とし、そうでない場合には立体で記載する。
- (8) 単位の記載においては、国際単位系 (SI) を尊重する日本水産学会誌に準じる。略記するものについては複数でも「s」を付けない。なお、水量単位は「 $\mu$ L」, 「mL」, 「L」, 「m<sup>3</sup>」を使用し、「kL」は使用しない。例外として、船舶や漁労に関する論文においては、航行や操業に関する諸単位 (「kL」, 「哩」, 「kt」等) の使用も認める。
- (9)  $x$ ,  $y$ ,  $n$  (個体数など) などの変数,  $\alpha$ ,  $\beta$  などのパラメータ,  $p$ ,  $r$ ,  $U$ -test,  $t$ -test などの統計量は斜体とする。なお数学で一般的に用いられる演算子 ( $\nabla$ : ナブラ等) は数式の理解を混乱させるため変数として使用しない。

化学関係の記号は次のように字体を区別する。

斜体とするもの:  $o$ -,  $m$ -,  $p$ -,  $N$ -,  $O$ -,  $S$ -,  $n$ -,  $d$ -,  $l$ -,  $prim$ -,  $sec$ -,  $tert$ -,  $cis$ -,  $trans$ -  
立体とするもの: pH, Rf, Cl-, bis-, iso-, homo-

## 16. 図、表などの他からの引用に関する注意

図、表など引用に伴う著作権に関係した紛争は、全て著者 (引用者) の責任となるので、他から図や表を引用する際には原著者及び著作権所有者の了解を得ておく必要がある。

## 17. 原稿の提出方法

- (1) 投稿用紙及び投稿原稿は、電子ファイルでメールにて事務局が指定するアドレス

Fish\_tech@ml.affrc.go.jp (水産研究・教育機構ホームページ内にある「刊行物等」の「水産

技術」を参照)に提出することを原則とする。編集委員長が必要と認めた場合は、印刷原稿の提出を求めることがある。

- (2) 編集委員長が写真などの画像の提出を別途求めた際には、高画質のJPEGファイル等で提出すること。
- (3) 電子ファイル原稿を電子メールに添付し送付する際のファイル名は、著者名を明記の上、原稿の区分を投稿の際のメール文に記述する。  
(例)  
水産太郎(原稿).docx  
水産太郎(投稿用紙).xlsx  
水産太郎(写真).jpg(原稿とは別に画像ファイルの提出を求めた場合)
- (4) 郵送での提出を求める場合の電子記録媒体は、CD-RあるいはDVD-Rディスクとする。なお、提出された媒体は返却しない。
- (5) 電子記録媒体を郵送する際には、ラベルに連絡者氏名、原稿の表題、ファイル名及び原稿作成に使用したソフトウェアを明記する。ラベルが使用できない場合は別紙に明記し、電子記録媒体に同封して郵送する。電子記録媒体の郵送に際しては、物理的な破損を防ぐために丈夫なケースで保護する。
- (6) 投稿用紙は、[http://www.fra.affrc.go.jp/bulletin/fish\\_tech/index.html](http://www.fra.affrc.go.jp/bulletin/fish_tech/index.html)よりダウンロードにより入手できる。

## 18. その他

- (1) その他の記載様式は、水産技術に記載された「水産技術投稿要領」、「水産技術投稿原稿の書き方及び投稿の方法」及び「投稿前チェックリスト」を参照することとし、不明な点は事務局へ問い合わせる。
- (2) 原稿の受理(掲載可)は、委員長、副委員長、及び編集担当委員による受理審査において審議される。編集担当委員による査読終了は原稿受理ではない。著者は、事務局からの原稿受理の連絡があり次第、受理審査での指摘事項等を修正した印刷用の最終原稿を提出する。

# 投稿前チェックリスト

## 1. フォーマットについて

<input type="checkbox"/>	1-1 用紙サイズ：	A4縦長
<input type="checkbox"/>	1-2 余白：	上下左右各 2cm
<input type="checkbox"/>	1-3 文字：	横書き 35 字× 25 行/頁
<input type="checkbox"/>	1-4 文字サイズ：	12ポイント
<input type="checkbox"/>	1-5 句読点：	和文では「, (全角)」 「。 (全角)」, 英文では「, (半角)」 「. (半角)」を使用する。
<input type="checkbox"/>	1-6 使用フォント：	基本的に日本語は明朝体 (MS明朝等), 英数字はセリフ体 (Times New Roman等), 見出し及び小見出しはゴシック体 (MSゴシック等) とする。
<input type="checkbox"/>	1-7 ページ番号：	ページ下中央 (全ページ)
<input type="checkbox"/>	1-8 行番号：	本文の左側にページごとに 1～25 を付す。
<input type="checkbox"/>	1-9 論文作成ソフトウェア：	Microsoft社の Wordを使用する。
<input type="checkbox"/>	1-10 構成：	1ページ目は表紙, 2ページ目は英文要旨, 3ページ目以降に本文, 謝辞, 文献, 表, 図・写真, 和文要旨の順に記載する。原稿はすべて1つのファイルにまとめる。

## 2. 表紙

<input type="checkbox"/>	2-1 表紙ページ：	和文表題, ランニングタイトル, キーワード, 和文著者名, 英文表題, 英文著者名, 所属及び所在地
<input type="checkbox"/>	2-2 表題, 和文：	表題は研究の目的や内容を端的に表現したものとし, 60字以内で記す。サイズは 12pt。
<input type="checkbox"/>	2-3 表題, 英文：	英文表題は和文表題と内容がかけ離れないよう注意する。文頭文字のみ大文字で, 30単語以内とする。サイズは 12pt。
<input type="checkbox"/>	2-4 ランニングタイトルとキーワード	和文で記載し, ランニングタイトルは 20字以内, キーワードは 4語以内とする。
<input type="checkbox"/>	2-5 著者名：	和文著者名は姓名合わせて 3文字以内の場合は姓と名の間に全角スペースを 1個挿入し, 4文字以上の姓名はスペースを挿入しない。 英文著者名はローマ字で記載し, 名 (first name), 姓 (family name) の順とする。名 (first name) は, 頭文字を大文字, 2文字目以降を小文字とし, 姓 (family name) は大文字で記載する。連名の場合, 和文著者名では中点「・」で, 英文著者名では, 「,」と「and」で連ねる。
<input type="checkbox"/>	2-5-a 著者名の変更：	著者名及び順番は原則として変更できない。変更する場合は, 正当な理由と著者全員の同意書を書面で編集委員長宛に提出する。
<input type="checkbox"/>	2-6 所属及び所在地：	第一著者の正式な所属機関名を和文及び英文で記載する。所在地については「市区町村名」, 「都道府県名と郵便番号」を記載する。共著者は所属機関名のみを記載する。所属機関名は略記しない。

<input type="checkbox"/>	2-7 第1著者以外の所属：	共著者の所属が異なる場合は、各著者名に上付きアスタリスク(*)と数字を付けて対応させる(和文のみ)。
--------------------------	----------------	--

### 3. 本文, 図表, 引用文献

<input type="checkbox"/>	3-1 記載内容(見出し)：	材料と方法, 結果, 考察, 謝辞, 文献等各見出しは左行端にゴシック体で記載する。「まえがき」部分の見出しは付けない。見出しの前後1行は空き行とする。小見出しの直前1行を空き行とし, 小見出しに続いて全角スペースを1文字挿入し, 本文は追い込みとする。箇条書きは禁止。
<input type="checkbox"/>	3-2 図及び表：	図表や写真は, 1点ずつ別ページにして作成する。
<input type="checkbox"/>	3-3 図表のタイトル, 説明文及び本文中の記述：	図表及び図表の説明は日本語で記載する。図表のタイトルは「図1.」, 「表1.」とゴシック体(数字はセリフ体), ピリオドはゴシック体(全角)で表は上に, 図は下に記載する。続くタイトル文及び付加的な説明文は明朝体, 英数字はセリフ体で記載する(最後の句点は不要)。付加的な説明が必要な場合, 図と写真はタイトル行から改行して次の行から1文ずつ改行して記載する。表は表の下部に記載する。原稿の本文中に図表に関連する内容を記述する際は, 本文に続き(図1), (表1)と記述する(ピリオドは不要)。
<input type="checkbox"/>	3-4 図表挿入箇所の指定：	図表ともに挿入位置を本文原稿の右の欄外に赤で指定する。
<input type="checkbox"/>	3-5 罫線：	表の横罫線は最小限に留め, 縦の罫線は用いない。表最上部の横罫線は二重線とする。
<input type="checkbox"/>	3-6 図表の大きさ, カラー指定の有無：	刷り上がりの図の大きさは横幅が8cm(片段)または16cm(両段)となるので, いずれかを指定する。図中文字の刷り上がりの大きさは最小でも2mm程度になるように考慮する。図及び写真はコントラストのはっきりとしたものを使用する。カラー指定の有無を記載すること。刷り上がりを意識して明瞭なものを作成する。
<input type="checkbox"/>	3-7 本文中への著者名表記：	著者が複数で, 2名の場合は姓を連記し「鈴木・佐藤」もしくは「Suzuki and Sato」, 3名以上の場合は第一著者の姓に「ら」または「 <i>et al.</i> (イタリック)」を付して記載する。
<input type="checkbox"/>	3-8 インターネット(Webサイトなど)からの引用：	インターネット上で公開されているデータベース等の電子データも引用文献とする。
<input type="checkbox"/>	3-9 機関名の略記(本文中で必要な場合)：	日本水産学会ウェブサイト内の「日本水産学会が用いる機関名の略記」( <a href="http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/PUBS/KITEI/kikan_new.html">http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/PUBS/KITEI/kikan_new.html</a> )を参照のこと。

### 4. 和文要旨

<input type="checkbox"/>	4 語数：	300字以内で記載。
--------------------------	-------	------------

### 5. 英文要旨

<input type="checkbox"/>	5 語数：	英単語 200 単語以内で記載。
--------------------------	-------	------------------

## 6. 引用文献リスト

<input type="checkbox"/>	6-1 論文：	著者（西暦年）表題、雑誌名、巻、掲載ページ。 短報においても論文同様のスタイルで記載する。巻を示す数字は半角・ゴシック体・太字で記す。
<input type="checkbox"/>	6-2 単行書：	著者（西暦年）書名、出版社、出版地。 英文書籍名は斜体で記載する。引用ページ（数字の前に「pp.」）もしくは総ページ数（数字の後に「p.」）を付す。
<input type="checkbox"/>	6-3 報告書：	著者（西暦年）表題、書名、出版社、出版地。 引用ページ（数字の前に「pp.」）もしくは総ページ数（数字の後に「p.」）を付す。
<input type="checkbox"/>	6-4 学位論文：	著者（西暦年）論文名、博士論文、学位授与大学名、所在地。 総ページ数（数字の後に「p.」）を付す。
<input type="checkbox"/>	6-5 英著者名：	英文の引用文献の著者名は姓「family name」のあとの「middle name」「first name」はイニシャルを付けるが、姓のあとのカンマや頭文字の省略形を表すピリオド、及び最終著者名の前の「and」は省略する。「middle name」や「first name」のイニシャルは半角スペースを挿入せず、連続して記載する。
<input type="checkbox"/>	6-6 日本語、英語以外の文献：	英語以外の外国語で書かれた文献については、英訳された題名をつける。文献に英訳が無い場合、著者が英語に翻訳する。文末には、(in Russian), (in Greek) の要領でオリジナルの言語が分かるように記載する。なお、英文要旨がある場合は、(in Greek with English abstract) のように記載する。
<input type="checkbox"/>	6-7 雑誌の省略名：	外国語雑誌名は、Chemical Abstracts Service (CAS) 及び BIOSIS Serial Sources に準拠して略記するものとし、斜体で記載する。
<input type="checkbox"/>	6-8 特許：	発明者、発明の名称、公開特許公報または特許公報の番号、年。 引用には特許出願公開番号（特開）または特許番号（特許）を取得したもののみ可能とする。出願番号（特願）は引用文献とはしない。
<input type="checkbox"/>	6-9 Web サイト：	著者名が明示されていない文献から引用する場合には、機関名（年）誌名、巻又は号、機関所在地、URL、アクセス年月日の順に記載する。
<input type="checkbox"/>	6-10 その他：	文献リストの2行目以下は、行頭を和文2全角スペース、英文3半角スペースを字下げして、1行目に続ける。

## 7. 用語等

<input type="checkbox"/>	7-1 用語の原則：	原則として「学術用語集（動物学編、植物学編、化学編、農学編など）」（文部省）及び「新・英和和英 水産学用語辞典」あるいは「Web版 新・英和和英 水産学用語辞典 ( <a href="http://www.jsfs.jp/d-dic/">http://www.jsfs.jp/d-dic/</a> )」（日本水産学会編、恒星社厚生閣、2017）に準拠する。
--------------------------	------------	--

<input type="checkbox"/>	7-2 単位の原則：	単位の記載においては、国際単位系 (SI) を尊重する。単位は原則半角、Times New Roman 体、立体で記載する。 記載例 (半角)：%, g, cm, L, m/sec. なお、水量単位は「 $\mu\text{L}$ 」, 「 $\text{mL}$ 」, 「 $\text{L}$ 」, 「 $\text{m}^3$ 」を使用し、「 $\text{kL}$ 」は使用しない。例外として、船舶や漁労に関する論文においては、航行や操業に関する諸単位 (「 $\text{kL}$ 」, 「 $\text{哩}$ 」, 「 $\text{kt}$ 」等) の使用も認める。
<input type="checkbox"/>	7-3 生物名：	生物名は標準和名をカタカナで書き、続けて学名をカンマやカッコを付けずに斜体に入れる。「いわし旋網」, 「かつお節」などの場合にはカタカナを用いない。英文要旨中では、生物名の次に学名を入れる。微生物名などはそのまま学名を用いる。原則として命名者を省く。また属名や種名を本文の最初から略記してはならない。本文中で学名の表示を必要以上に重複させることは避ける。図表中の学名は略さない。
<input type="checkbox"/>	7-4 化学名：	化学名は慣例に従って漢字もしくはカタカナで記載し、原語を用いる必要のあるときは小文字で書く。化合物の略語は国際慣用に従い、必要なときは、本文中でその旨を注記する。外国語は原則としてカタカナ書きとする。原語を用いる場合、人名、地名、ドイツ語の名詞、固有の商品名などを除き、小文字で記載する。同一報文中で同一物名について和洋語を混用してはならない。英文中の日本語はローマ字表記で斜体とする。
<input type="checkbox"/>	7-5 パラメータ：	$x$ , $y$ , $n$ (個体数など) などの変数, $\alpha$ , $\beta$ などのパラメータ, $p$ , $r$ , $U$ -test, $t$ -test などの統計量は斜体とする。
<input type="checkbox"/>	7-6 記号：	化学関係の記号は以下のように区別する。 斜体： $o$ -, $m$ -, $p$ -, $N$ -, $O$ -, $S$ -, $n$ -, $d$ -, $l$ -, $prim$ -, $sec$ -, $tert$ -, $cis$ -, $trans$ - 立体： $\text{pH}$ , $\text{Rf}$ , $\text{Cl}$ -, $bis$ -, $iso$ -, $homo$ -
<input type="checkbox"/>	7-7 文字：	本文中で全角特殊文字 (♂ ♀ ÷ ± ¥ ℃ % ☆ ◎ など) を使用しない。
<input type="checkbox"/>	7-8 セ氏記号：	日本語フォントの全角特殊記号「℃」は使わず、「° (文字コード：00B0)」と大文字の「C」を隣合わせて「°C」とする (両方とも半角)。

## 8. その他

<input type="checkbox"/>		メールで投稿する際の電子ファイル名は、以下の通りとする。 「水産太郎 (原稿) .docx」, 「水産太郎 (投稿用紙) .xlsx」
<input type="checkbox"/>		他から図や表を引用する際には、あらかじめ原著者及び著作権所有者の了解を得ておく。